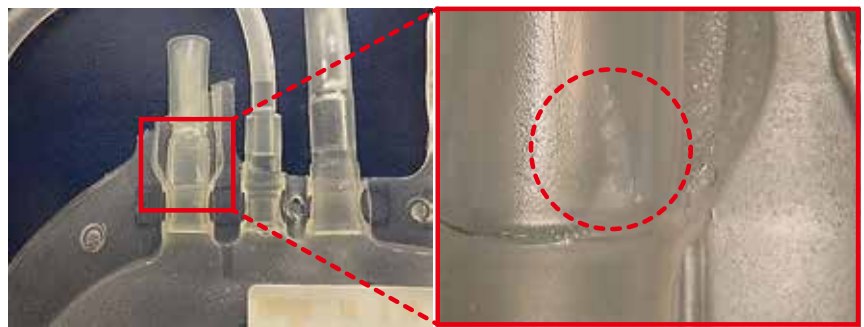




輸血業務にひそむリスク～輸血用血液製剤・輸血セットの取り扱い～

輸血用血液製剤の品質等に関して、品質不良の恐れがあるとして医療機関から苦情の申し出があった場合には、血液センター品質保証課では苦情内容を確認し、その原因について調査を行っています。

苦情の一つとして、血液製剤への輸血セット挿入後に輸血口のピールタブより血液の漏れが認められるとの申し出をいただくことがあります。その際には、当該製剤について、血液漏れの状態および挿入された輸血セットと血液製剤の輸血口の接合部分(挿入口)に隙間が無いかなどの外観確認を行います。その後、当該製剤に使用された血液バッグの製造元(バッグメーカー)へ当該製剤の輸血口部分について精査を依頼します。その精査では、スパイク針によるものと考えられる傷が輸血口内側から外側へと向かっているのが殆どの事例で認められ、「輸血セットの挿入ミス」であると推察される所見¹⁾となっています(図1)。一方、血液バッグの不良および輸血セットの挿入ミスも認められない事例では、血液バッグに圧力がかかった状態でスパイク針を穿刺したため、スパイク針と輸血口の隙間から血液が漏れ、漏れた血液がバッグを吊り下げた際に輸血口に付着したことが考えられます。



(図1)



(図2)

バッグに輸血セットを挿入する際には、平らな場所で血液バッグを横に寝かせた状態で輸血口を水平に保ち、スパイク針を少しひねりながら、真っ直ぐに根元まで差し込む必要があります。点滴スタンドに吊り下げて差し込むことは、血液の漏出や針先によるバッグ破損の原因となります²⁾のでご注意ください(図2)。

(中四国ブロック血液センター 品質保証課 平田康司)

1) 苦情品の精査から判明した輸血製剤のリークの原因, 日本輸血・細胞治療学会誌, 64(3), 477-478, 2018

2) 輸血方法(輸血セットの使い方), 輸血用製剤取り扱いマニュアル, 日本赤十字社, 2018.12

専門学校と血液センターとの「Win Win な関係」

岡山県赤十字血液センターでは、献血未実施の専門学校にお声かけし、学校の特色を活かしたイベントを献血ルームで展開しています。共同でイベントを実施することで献血に関心を持っていただき、継続的な「Win Winな関係」を築き献血をお願いしています。

今回、8月21日(水)献血の日に、「岡山ビジネスカレッジ パティシエ学科」の学生に「けんけつちゃんケーキ」を作っていただき献血していただいた方々にプレゼントしたところ、「おいしい!」「カワイイ!」「食べるのがもったいない」と大好評でした。

実施に際しては、多くの方にイベントを知っていただくことを目的として、マスコミ出演を前提に話を進めました。まず、「献血セミナー」を受けて「献血の大切さ」を伝えることができるようになっていただきます。希望者には献血を体験していただき、「献血セミナー」で得た知識をもとに、イベントの展開を学生自身で考えていただきました。



実施の数日前には、学生と血液センター職員でマスコミ各社を回り、自分たちの言葉で広報依頼を行い、地元テレビのイベント告知番組に出演するなど、学生の声で当日の献血を呼び掛けました。授業の一環(デザインを考える、作る、お客様に提供する)として取り組みを行ったため、学校のご厚意で費用負担をいただきました。血液センターとしては、平日に多くの献血者にご協力いただきWin!、学校としては、以前から希望していた「地元への社会貢献」と「知名度アップ」が実施することができてWin!。

結果として、当日の献血は約100人に上りました!!テレビ局3社(5回ニュース放送)、新聞1社に取り上げていただき、学校からは「次回もぜひ実施をしたい」と申し出をいただき、大成功のイベントとなりました。

今回のイベント実施をきっかけに、同学校の「トータルビューティ学科」の学生が11月11日(月)「ネイルの日」イベントの実施を計画し、「パティシエ学科」の学生からは、来年4月1日(水)「献血ルームうらら4周年記念ケーキプレゼント」の実施希望もいただきました。今では、いつでも必要な時に献血送迎をお願いできる「困ったときに頼れる学校」になっています。今後もこういった「Win Winな関係」を多くの学校と築き、献血協力校を増やしていきたいと思えます。

(岡山県赤十字血液センター 献血推進課 廣江善男)

